

トピック

夫婦の出生力の低下要因
に関する分析について

経済社会総合研究所行政実務研修員

藤田 健

我が国においては、ここ数年やや持ち直しの動きが見られるとはいえ、長期的に出生率は低い水準で推移し、少子化が進展している。その要因としては、未婚化の影響が大きいと指摘されており、この点に関しては経済社会総合研究所でも平成23年度に調査研究を行った¹。未婚化の傾向とともに、結婚した夫婦からの出生児数が1990年代以降は減少傾向にあり、1960年代生まれ以降の世代では、これまでのように最終的な夫婦出生児数が2人に達しない可能性も指摘されている。夫婦の出生児数が減少している背景には、様々な要因が関係していると考えられるが、夫婦の就業・経済状況や双方の親との関係、夫婦の家事・育児分担等の夫婦を取り巻く生活環境とともに夫婦の意識や価値観も影響していると考えられる。少子化の動向を検討していくためには、このような夫婦を取り巻く生活環境や夫、妻の意識、価値観等について、客観的なデータに基づく分析・検討を深めていくことが不可欠である。

そこで、平成24年度は夫婦の出生力に関して、少子化の動向を検討するための基礎的資料となる分析を行うため、20代から40代の既婚男女を対象に夫婦を取り巻く生活環境や夫、妻の意識、価値観等について意識調査を24年9月に実施した。また、この意識調査の個票を用いて、夫婦の出生力の低下要因に関して、従来の研究では注視されてこなかった夫婦の生活環境に焦点を当てた分析を行い、その結果を平成25年8月に Discussion Paper Series No.301「夫婦の出生力の低下要因に関する分析～「少子化と夫婦の生活環境に関する意識調査」の個票を用いて～」²（以下「DP」という。）として公表した。本稿では、ワーク・ライフ・バランスに関連する部分を中心に、その概要について紹介する。

DPでは、第1部で、この意識調査の趣旨、方法、及び主な調査結果について紹介し、第2部では、意識調査の個票を用いて、夫婦の出生力や出生意欲の低下に関係する要因について下記の5つの角度から行った分析結果をまとめている。

1. 夫の育児参加と夫婦の第2子、第3子の出生意欲—理想と現実的出生意欲の比較—
2. 夫婦の伴侶性と家族規範意識が追加出産意欲に及ぼす影響
3. 世代間関係と子世代の出生数との関連
4. 妊娠先行型結婚と通常結婚の背景と出生意欲
5. 教育アスピレーションが出生力に及ぼす影響

1点目については、ワーク・ライフ・バランスに関連する分析が行われ、「夫の育児参加が少なければ、夫婦の第2子、第3子の現実的出生意欲は低くなる傾向にあり、理想に基づく出生意欲と乖離をもたらす」という仮説に基づき、現在の子ども数別に分析を行った（末尾の参考を参照）。

その結果、夫の育児参加が少ないことは、男女とも現実的に第3子を出産しようとする意欲を低下させることが示された。また、情緒的サポートが多いことが、おおむね第2子および第3子の追加出産意欲を高めていることが示された。これらのことから、第1子出生後の夫婦のお互いの情緒的サポートが重要であるとともに、第2子出生後の夫の育児参加が夫婦の現実的出生意欲に関係していることを踏まえると、第1子出生後から夫が育児参加し、育児の経験を共有していく意義は大きいとの示唆が得られたと考えられる。

また、他の分析からは、①夫婦の伴侶性をみると、夫婦共通に行う行動が多いことや夫婦共通の趣味があることは、おおむね第1～3子の追加出産意欲を高める、及び②家族規範意識が強い者ほど、第1子および第2子の出生意欲が高い、③親（子どもからみた祖父母）と同居または近居している場合に、現在・予定・理想のいずれの子ども数も多いことなどが示されている。

これらのことから、夫婦の育児分担、情緒関係、共同行動と出生力の関係を踏まえて少子化対策を考えると、夫婦でお互いに悩みを聞きあったり相談し、育児

1 全文は経済社会総合研究所 HP (http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_dis/e_dis296/e_dis296.html) に掲載。

2 全文は経済社会総合研究所 HP (http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_dis/e_dis301/e_dis301.html) に掲載。

の経験を共有したり、共同で行動することができるような生活環境の基礎として、ワーク・ライフ・バランスの一層の推進が求められる。特に男性の働き方の見直しは、夫の状況の改善だけでなく、女性にとっても出産・育児をしながら働き続けることが容易になる就業環境の整備につながる。また、子育てにおける世代

間の支え合いが夫婦の出生力にプラスの影響をもたらすことから、家族・親族からの子育てのサポートをえられない者に対する社会的なサポート体制の充実などが求められることが本研究で示されている。

藤田 健 (ふじた けん)

(参考)

夫の育児参加と夫婦の第2子、第3子の出生意欲—理想と現実的出生意欲の比較—

仮説：夫の育児参加が少なければ、夫婦の第2子、第3子の現実的出生意欲は低くなる傾向にあり、理想に基づく出生意欲と乖離をもたらす。

分析方法

- ・本調査「少子化と夫婦の生活環境に関する意識調査」(インターネット調査)の20~39歳の女性のサンプルを使用、男性についても、女性との比較の観点から、同様の年齢サンプルを使用している。
- ・理想に基づく出生意欲(理想子ども数>現在の子どもの数)の場合を有=1、そうでない場合を0)と現実的出生意欲(現実的に持つつもりの子どもの数>現在の子どもの数)の場合を有=1、そうでない場合を0)を被説明変数とし、同じ説明変数を用いたプロビット分析を行い、推計結果を比べ、現実的な出生意欲を萎縮させている要因を検討している。現在の子どもの数別に推計している。

第2子の出生意欲(推計結果)(表1)

- ・女性：一部で理想に基づく出生意欲と現実的出生意欲で乖離が生じている(夫が育児分担を手伝う場合、夫が全くしないのに対して、現実的出生意欲は有意に

表1 プロビットモデルによる推計結果：第2子の出生意欲(現在、子ども1人)

被説明変数：出生意欲	推計1	推計2	推計3	推計4
1. 有	女性：理想	女性：現実的	男性：理想	男性：現実的
0. 無				
	限界効果	限界効果	限界効果	限界効果
夫の週平均労働時間(40時間以上50時間未満)				
60時間以上	0.048*	0.071	0.026	0.020
50時間以上60時間未満	-0.022	0.022	-0.014	0.029
40時間未満	0.026	0.015	-0.021	-0.010
無職等・わからない	-0.070	-0.150*	0.026	-0.096
夫の育児分担(全くせず、妻のみ)				
夫は手伝うが、主に妻	0.006	0.163**	0.029	0.120
夫と妻で半分	-0.062	0.014	0.022	0.124
その他	-0.150*	-0.090	-0.009	0.118
配偶者からの情緒的サポート				
悩み聞くダメー	0.044*	0.196***	0.047*	0.162***

資料出所：ESRI Discussion Paper Series No.301第2部第1章の表3及び表4を簡略化して記載

注1) **、*はそれぞれ有意水準1%、5%、10%を示す。

注2) 説明変数〈 〉内は参照グループ。

+)。

- ・男性：理想に基づく出生意欲も、現実的出生意欲も育児参加状況で有意な違いはない。
- ・男女ともに、配偶者からの情緒的サポートがないと、現実的出生意欲が低下し、理想に基づく出生意欲と乖離している。
- ・夫が長時間労働と感じている妻の理想に基づく出生意欲が高いが、現実的出生意欲は萎縮している。

第3子の出生意欲(推計結果)(表2)

- ・女性：仮説どおり。夫の育児参加が少なければ、現実的出生意欲は低くなり、理想に基づく出生意欲と乖離をもたらしている。
- ・男性：育児参加している方が、理想に基づく出生意欲、現実的出生意欲は高い。
- 「子どもが好きだから」といった別の要因が出生意欲や育児参加の両方に関係している可能性があること(疑似相関の可能性)も考えられる。
- ・夫が長時間労働と感じている妻の理想に基づく出生意欲が高く、現実的出生意欲は萎縮している傾向が第2子の出生意欲より鮮明である。

表2 プロビットモデルによる推計結果：第3子の出生意欲(現在、子ども2人)

被説明変数：出生意欲	推計1	推計2	推計3	推計4
1. 有	女性：理想	女性：現実的	男性：理想	男性：現実的
0. 無				
	限界効果	限界効果	限界効果	限界効果
夫の週平均労働時間(40時間以上50時間未満)				
60時間以上	0.102**	0.002	0.012	-0.001
50時間以上60時間未満	0.060	-0.015	0.013	-0.017
40時間未満	-0.011	-0.012	0.010	-0.030
無職等・わからない	0.080	0.015	-0.047	-0.062
夫の育児分担(全くせず、妻のみ)				
夫は手伝うが、主に妻	-0.019	0.121***	0.215***	0.144**
夫と妻で半分	0.092	0.464***	0.201**	0.232**
その他	-0.050	0.232	0.356***	0.250
配偶者からの情緒的サポート				
悩み聞くダメー	0.080*	0.008	0.035	0.070***